

山本良吉 やまもと りょうきち 教育家。明治四年十月十日石川縣生れ、昭和十七年七月十一日没（八七一―一九四二）。舊姓金田。號晁水、筆名兆水漁史、公同木、四不正、城西隱士、城西閑士、山本良、山良子、山良生、山良番神、憂慮生、方外史、晁、無見、秋紫山人、讀書生、蹉跎、遊方外史、金田良吉、門内生等。明治二十一年第四高等中學校豫科卒。同窓の西田幾多郎、藤岡作太郎、鈴木大拙等がゐた。またこのころ『北國新聞』主筆赤羽萬次郎の代つて論説の筆を執るなど文筆も長じ、爾後と評論隨筆多數残す。二十八年帝國大學文科大學哲學科選科修了後は京都、静岡の中學校を教へ、四十一年京都帝國大學學生監、翌年第二高等學校教授と兼任。大正七年學務院教授となり、九年には學生生活狀況視察の歐美に赴く。昭和十一年武蔵高等學校校長に就任。平生漢詩も能くし、加藤天淵（虎之助）の批評を受けた。

著書の『倫理學史』（明治三十年十一月八日富山房）、『靜修書自答問』（以文會編、明治四十五年五月二十八日博文館）、『普通教育の根本改造』（大正九年七月二十六日弘道館）、『わが民族の理想』（大正十年十月十一日弘道館）、『新訓練論』（再版・大正十四年二月五日教育研究會）、『勅語四十年』（昭和五年九月二十日教育研究會）等の他、『晁水先生遺稿』（内田泉之助編、昭和二十六年七月十一日故山本先生記念事業會）がゐる。



晁水先生遺稿